

- 1 特集
ALL TOKIWA DAY 2012
セタフェスティバル
- 3 広がる人の輪、深まる地域との連携
- 5 マスコットキャラクター決定
- 7 当日のプログラムからPick Upレポート

学びのTOPIC

- 11 大学①「学習習慣の形成」
- 12 大学②「eラーニング開発」
- 13 研究紹介
児童の放課後活動を国際比較
- 14 教員著書案内

表紙イラストについて

「未来への願い」

今号の巻頭では、常磐大学初の試みであるALL TOKIWA DAY 2012について、特集を組んでご紹介しました。東日本大震災以降、私たちは、人と人の絆の大切さを再認識してきたように思います。そうしたなかで開催したセタの日のイベントには、学校関係者だけでなく、地域の方々も含めた人々のつながりを深める、特別な意味があったと思います。子どもたちから大人まで、すべての未来への願いが天に届くことを祈って筆をとりました。

illustrator 平野 こうじ

特集
ALL TOKIWA DAY 2012
セタフェスティバル開催。



常磐大学は平成21年度
大学評価の結果、(財)大
学基準協会の大学基準
に適合していると認定さ
れました。



ACCREDITED
2008

常磐短期大学は平成20
年度(財)短期大学基準
協会による第三者評価
の結果、選格と認定され
ました。



October 2012 vol.19

発行日 2012年10月
発行 学校法人常磐大学
編集 広報課

〒310-8585 茨城県水戸市見和1丁目430-1
Tel.029-232-2511 (代)
<http://www.tokiwa.ac.jp/>

オールトキワ初のイベント 思いをひとつにつなぐセタの日。

7月7日に開催された「ALL TOKIWA DAY 2012 セタフェスティバル」。
本学初めての試みは、あいにくの雨模様にもかかわらず、大盛況となりました。
当日の様子を振り返りながら、それぞれが込めた思いも含めてご紹介します。

EVENT MAP



常磐大学と皆さまの輝かしい未来に向かって

本学は、1909年この水戸の地に私塾を開学して以来、今年で103年を迎えました。幼稚園、中等教育学校、高等学校、短期大学、大学、大学院を擁する総合的な教育機関へと発展できたのは、ひとえに多くの卒業生や地域の方々のご支援があったからこそと考えております。今回のセタフェスティバルは、その感謝を込め、すべてのステークホルダーとの絆を深めるために開催いたしました。職員や園児、生徒、学生が力を合わせ、時間をかけて準備した成果をお楽しみいただけたことと思います。また、本学の新しい顔となるマスコットキャラクターも、参加者の皆さまの投票によって決定されました。今後、ホームページやFacebook、Twitterなどでの活躍にご期待ください。悪天候にもかかわらずお越しくくださった皆さま、ありがとうございました。心から感謝申し上げます。



ALL TOKIWA DAY 2012 セタフェスティバル 実行委員会 委員長
常磐大学・常磐短期大学 学長 森 征一



ALL TOKIWA DAY 2012

セタフェスティバル



● 産直野菜



農業大学の学生の皆さんが丹精込めて育てた野菜を販売。作った人が売る、まさに顔の見える野菜は、朝採りたてということもあって飛ぶような売れ行きでした。



常盤大学の新しいマスコットキャラクター誕生を聞きつけ、地域のキャラクターたちが応援に駆けつけてくれました。水戸ホーリーホックの「ホーリーくん」をはじめ、ひまわり大使「ナカマロちゃん」「笠間のいな吉(R)」「ハッスル黄門」など、どのキャラクターも子どもたちの人気者。ステージだけでなくキャンパス内のそこかしこで、子どもたちと触れ合う姿が見られました。

● ゆるキャラ集合



● 屋外ステージ

司会は本学卒業生の奥山幸恵さん。進行サポート役は人間科学部コミュニケーション学科3年萩原章吾さん。奥山さんは「こうした全学をつなぐイベントはなかなかほかではないこと。子どもから大人までを超えた交流ができてよかった」とコメントを寄せてくださいました。

奥山 幸恵さん 人間科学部1999年3月卒業
 在学中はマスコミの授業に興味を持ち、4年次から「FMはるるん」のボランティアスタッフとして活動。現在はラジオのパーソナリティを務めるほか、結婚式やお祭りなど各種イベントでも司会者として幅広く活躍中。



● ウズベキスタンダンス

本学の卒業生でもある芳賀裕子さんの「ウズベキスタン舞踊」。シルクロードの中継地として栄えたウズベキスタンの踊りは、くるくると回るステップに合わせて、長い三つ編みとゆったりとした衣装が揺れるさまがとても優雅。ステージ後のトークでは、同じく卒業生である司会の奥山さんと学生時代を振り返り、イベントの企画・運営について学んだことが卒業後の活動に役立ったと語ってくださいました。今後はダンスに限らずウズベキスタンのまだ知られていない魅力を伝えていきたいと語る芳賀さんでした。



芳賀裕子さん コミュニティ振興学部2005年3月卒業
 大学卒業後、単身ウズベキスタン共和国に渡り、現地の舞踊団「Bukharacha」に入団。帰国後は数多くのイベントに出演しながら、インストラクターとしてウズベキスタン舞踊の普及に努める。現在は東京都中央区でウズベキスタン出身のご主人とウズベキスタン料理を提供するダイニングバー「アロヒディン」を経営。

● こども縁日



ジャンボスライダーや定番の金魚すくい、キックボウリングなど盛りだくさんの縁日。お手伝いしてくれたのは、ときわ祭実行委員の方々です。

● バルーンアート



フェスティバル開始早々、子どもたちの長い行列が続いていたのがバルーンアートのブース。本学卒業生の佐々木美季さんはバルーンアートの専門家で、彼女の手にかかると、色とりどりのバルーンがアツという間に「刺」や「ハートのステッキ」に変身!その鮮やかな手さばきに子どもたちは目を丸くしていました。学生時代、海外の街に飾られたバルーンアートを見て、この世界を志した佐々木さん。後輩へのアドバイスとして、何事も目標を持って取り組み、チャレンジすることの大切さを語ってくださいました。

佐々木 美季さん 人間科学部2005年3月卒業
 大学卒業後2年間、会社勤めをした後、2007年にバルーン専門店「ババメアム」をオープン。店舗の運営とともに、結婚式やイベントの装飾、国際大会などのコンクールにも積極的に挑戦している。2010年全国大会で準優勝、2011年には世界大会にも出場した。



● B級グルメ



話題の地元B級グルメが大集合。フェスティバルのスタートと同時に行列ができ、売り切れすお店が続出し大盛況でした。

● 七夕飾り



キャンパス内のあちこちに飾られた七夕の笹。用意した短冊にはたくさんの願い事が書き込まれていました。

● フリーマーケット



開始前から行列ができるほど注目のフリーマーケット。収益154,586円はすべて、茨城県の震災復興事業に寄付させていただきました。皆さまご協力ありがとうございました。

● 卒業生交流ブース



「思い出を語ろう」をテーマにしたブースには、教員や卒業生からのメッセージをはじめ、学園の歩み、制服などを展示。思い出の写真を懐かしそうに見つめ、寄せ書きノートに思いを書き込む卒業生の姿が見られました。



● バルーンリリース



オープニングセレモニーではバルーンリリースが行われました。色とりどりのバルーンが、それぞれの七夕の願いをのせて空高く舞い上がりました。

● 手作りパン販売



水戸市知的障害者就労支援施設「みのり」の皆さんによる手作り、無添加のパン。どれも昔懐かしいおいしさで、あっという間に売り切れてました。

在学学生・卒業生・保護者・教職員が力を合わせ、深まる地域とのつながり。
 屋外ステージでは数々のショーが繰り広げられ、屋内ステージや体育館では園児や生徒・学生たちの日頃の成果をご覧いただきました。
 地元B級グルメの出店、県産野菜の直売、フリーマーケットなど、地域の方とのつながりを深める催しも大好評でした。

広がる人の輪、深まる地域との連携。

マスコットキャラクタークター決定。

応募総数1109点から選ばれた、新しい常磐の顔です。



最優秀賞

スクールカラーを基調にした親しみやすいキャラクター。

七夕フェスティバルのメインイベントのひとつがマスコットキャラクターの決定です。総数1109点(一般応募は776点)にも上る作品が寄せられ、なかには海外からの応募もあり、予想以上の盛り上がりとなりました。

最終結果は七夕フェスティバル来場者による当日投票に委ねられ、投票総数は1409票。

このうちの4割近い票を集め、2位に200票以上の差をつけて見事、最優秀賞に選ばれたのが大阪市にお住まいの福添あゆみさんの作品です。

このマスコットキャラクターは今後、大学のホームページをはじめ、フェイスブック・ツイッターなどのソーシャルメディアや、キャンパスグッズ、イベントなどさまざまな場面で活躍する予定ですので、どうぞご期待ください。

今回の募集に際し、ご応募くださいました皆さまにあらためてお礼申し上げます。ありがとうございます。

受賞の言葉

大阪市グラフィックデザイナー
 福添あゆみさん

インターネット上でキャラクターを募集していることを知り、応募しました。常磐大学の広報活動に役立ち、幅広く情報を発信できる存在にしたいと思い、できるだけシンプルにデザインをまとめました。皆さんに親しんでもらえるキャラクターになることを願っています。この受賞をきっかけにさまざまなキャラクター制作に励みたいと思っています。

選考方法の流れ



ご応募いただいたすべての作品から、選考委員会による一次審査を行い、8点の作品をノミネート。その後Facebookでの投票を行い、最終候補を4作品に絞りました。七夕フェスティバルでは、この4作品を提示し、来場者の皆さまの当日投票によって、最優秀賞を決定しました。

学内優秀賞(大学短大)



学科で学んできたことを生かしてデザインを考えました。

制作にあたっては、見る人に「常磐をイメージしてもらったことを念頭におきました。親しみやすさと、常磐大学の各学部のとまりと交流を表現するために、常磐大学のシンボルマークをモチーフに、頭の突起でアルファベットの「T」(TOKIWAのT)を表していることがポイントです。学内優秀賞をいただいたことは素直にうれしいと思いますが、一方で入選できなかったことについては残念な気持ちもありました。コンテストなどの機会があれば、今後も積極的に挑戦していきたいと思います。



常磐大学
 人間科学部コミュニケーション学科4年
 神保 勇人

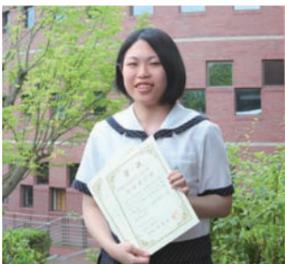
入賞

学内優秀賞(高校)



Wの受賞は貴重な経験
 いい思い出になります。

ホームページなどに登場するキャラクターなので、親しみやすいかわいらしさを意識して描きました。常磐のシンボルマークの中で、浮遊できるようにしたことがデザインのポイントです。この「ときちゃん」には、常磐の関係者に拾われた猫が恩返しをしたいと強く願ったところ、妖精がその思いをかなえて、この姿にしてくれた」という設定があります。学内優秀賞だけでも貴重な経験なのに、総合入賞と合わせてWで受賞したことは高校生活の思い出になります。



常磐大学高等学校
 3年
 町田 眞子

学内優秀賞(智学館)



常磐らしさを表すため
 スクールカラーを強調しました。

ホームページの時間に、新しいマスコットキャラクターのデザインを募集していることを知らされ、せっかくのチャンスなので応募しました。アイデアを練る上で、気を配ったのは、どうすれば常磐らしさを表現できるかということでした。スクールカラーの緑を基調に全体をデザインしたのはそのためです。またマスコットキャラクターなので誰からも愛されるように「できるだけシンプルでかわいらしく」を心掛けました。学内優秀賞に選ばれたことは今後の励みになります。ありがとうございました。



智学館中等教育学校
 5年
 関 奈都美

学内優秀賞(幼稚園)



いただいた副賞で
 おもちゃを買います。

優秀賞に選ばれたことはビックリしたけれど、うれしかったとお話してくれた乃亜さん。モチーフはネコで、たかさんのハートの模様と耳のリボンがポイントだそうです。このキャラクターは幼稚園の保育の時間に描いたため、一緒にインタビューに答えただけで、たお母様も受賞のお知らせを聞いて初めてこの作品を知ったとのこと。外遊びが好きで、いまはよくシャボン玉で遊んでいる乃亜さん。おうちではお菓子作りを手伝うことも多く、大きくなったらパティシエになりたいと七夕の短冊に書き込んでくれました。



常磐大学幼稚園
 さくら組
 篠田 乃亜

高校



常磐大学高等学校3年
体操部キャプテン
郡司 幸祐

最後に演技したムーンサルトは着地もきれいに決められて良かったと思います。体操はほかの競技と違って、種目数が多く、どうしても練習時間が長くなりがちです。平日でも夜9時を過ぎることもあり、先生や保護者の方の支えがあるからこそ続けられると感謝しています。インターハイには女子は団体で、男子は個人での出場になりますが、みんなの分もがんばって決勝に残ることが目標です。そして、見た人の記憶に残る演技をしたいと思っています。

練習を支えてくださる先生や保護者に感謝。

床を中心に、華麗な演技を披露した体操部。選手にとっては、試合とは違った緊張感のなかで演技する、とても良い経験になりました。普段常磐大学高等学校で一緒に練習している小学生たちも登場。こうした次世代の選手育成も地域貢献の一環と考えています。



常磐大学高等学校3年
男子バスケットボール部キャプテン
大森 樹

「走るバスケット」を磨き全国ベスト8をめざす。セタフェスティバルでは関係者以外の方にもバスケットボール部の真剣な取り組みをアピールでき、しかも、そこで勝てたことは何よりうれしいです。キャプテンとして心掛けているのはミスを引きたくないこと。どうすればミスが防げたか、みんなで話し合いながら答えを見つけているようにしています。インターハイ予選は県3位で代表を逃しましたが、冬の選抜では全国ベスト8を目指して、チームの持ち味である「走るバスケット」に磨きをかけていきます。

「走るバスケット」を磨き全国ベスト8をめざす。

神奈川の強豪を迎えた男子バスケットボール部。今春、関東大会に出場した男子バスケットボール部が親善試合を行いました。お招きしたアレセイア湘南高校は神奈川の強豪。高さのあるチームに持ち前のスピードで対抗し、78対69で勝利をおさめました。

短大 大学



常磐大学
人間科学部現代社会学科3年
倉橋 大樹 Boogie Train代表

七タフェスティバルでは幅広い世代の人が、足を止めて拍手を送ってください、良い経験になりました。前日の7月6日に新人向けのクラブイベントがあり、その練習とも重なったため、特に1年生にとっては準備が大変だったと思いますが、無事ステージを終えたときの達成感は格別だったと思います。何より自分たちが心から楽しんで踊ることができたので、見ていた子どもたちが、将来常磐大学でダンスをやってみたいと思ってくれたらうれしいですね。

幅広い世代の方から拍手をいただきました。

ダンスの楽しさを表現ブギートレインのステージ。大学・短大からはダンスサークル「Boogie Train」が出演。中学校でダンスが必修化されるなど、表現力やコミュニケーション力を育てると期待されるダンス。その魅力を存分にアピールしてくれました。



教員主催の参加型「学内横断常磐クイズ」。

4人の教員によるクイズは3択方式。研究分野からの出題だったためか、4問すべて正解した方は1人でしたが、参加された方からは「初めて知ったことが多かった」「非常に興味深い内容だった」という声をいただきました。



オープニングを飾る吹奏楽団のWelcome演奏。

フェスティバルのスタートを告げるのは吹奏楽団。30分たっぷりの演奏でもてなしてくれました。8月のコンクールでは県大会で銀賞を受賞しました。



ECOブース「森のラウンジ」。

学生エコサポーターとエコセンター準備室が環境学習DVD上映、地球温暖化クイズ、環境アンケート、省エネパネル展示などを行いました。アンケート回答者、クイズ参加者共に予想を超える盛況となり、環境意識の高まりを感じました。



ピアノの音色を贅沢に楽しむミニコンサート。

人間科学部教育学科の岡部玲子准教授によるピアノコンサートは、誰もが一度は耳にしたことがある著名なピアノ曲と星にちなんだ曲、計6曲のラインナップ。作曲者のプロフィール紹介などもあり、入園前のお子さんからご年配の方まで、幅広い世代の方がピアノの音色を楽しんでいました。



水戸の新名物を目指す学長の手作りスパゲティ。

地元茨城のオリジナルの味を、常磐大学から発信したいと、学長の秘伝の味をベースに考案したのがこの一品です。茨城が生んだ銘柄肉である、常陸牛とローズポークを贅沢に使用し、具だくさんに仕上げた一皿は、水戸の名物にしたいという願いを込めて「ミト（水戸）ソーススパゲティ」と名付けられました。

PICK UP

幼稚園



常盤大学幼稚園
年長組主任
宮内 純

年長組は、園で一番大きなお兄さんお姉さんらしく、ストーリー性のある長めの曲に挑戦しました。子どもたちと曲を仕上げていくなかで、自発的に練習する姿勢が見られたことに成長を感じました。普段から自分たちの好きな遊びを自由につけてきたことが、今回、自主性や協調性、表現力として現れたのだと思います。12月の発表会では創作劇に挑みます。今回の取り組みが自信となつて生かされることを期待しています。

頼もしさを感じた
自発的に練習する姿。

**園の生活での成長ぶりを
ご覧いただきました。**
各学年に分かれて歌や手遊びを発表しました。たくさんの方に見守られての舞台は、子どもたちの大きな自信につながったと思います。発表の前にはセタフェスティバルを楽しみ、キャンパスとの関わりが深まったことも収穫の一つでした。



常盤大学幼稚園
年少組主任
江幡 裕子

4月の入園時は親と離れることも試練だった年少さんにとって、この時期の舞台は大きな挑戦です。そこで普段クラスで歌っている曲を選び、「みんな歌が上手だから、お父さんお母さんに聴かせてあげよう」と楽しい雰囲気作りを心掛けた。本番では思った以上に元気よく発表でき、拍手を浴びたときの誇らしげな表情が印象に残っています。良い成長の機会をいただき、12月の発表会がますます楽しみになりました。

入園から約3カ月の舞台
は大きな挑戦でした。



常盤大学幼稚園
年中組主任
太田 郁恵

チームの一員という意識が
芽生えた年中組。

年中組はいつものクラス単位ではなく、学年を2つのチームに分けて発表しました。「くまさんチーム」と「おひさまキラキラチーム」というチーム名や振り付けも自分たちで考えるようにしたため、チームの員という意識が芽生え、前向きに楽しく準備ができたように思います。保護者の方からも「楽しそうに歌っていましたね」と声をかけていただき、何より子どもたち自身が楽しんで発表できたことに手応えを感じました。

PICK UP

智学館



智学館中等教育学校3年
ハンドベル演奏
兼松 晴輝

練習で培った集中力を
学校生活に役立てたいです。
ハンドベルは個人練習ができないため、週に2時間程度の練習時間集中して取り組むことを心掛けた。練習を重ねるうちに、休憩時にはリラックスし、練習ではグッと集中するというメリハリが生まれ、当日は良くまとまって演奏できたと思います。ハンドベルは、みんなが心を合わせなければ良い演奏はできません。発表を通して学んだ集中力と力を合わせるこの大切さを今後の学校生活にも役立てたいと思っています。

**屋内ステージで見ごたえ
聴きごたえのある発表。**
智学館からはハンドベルとマリンバの演奏、そして、お笑いライブを発表しました。新学期から実質2カ月程度の練習にもかかわらず、息の合った舞台上に会場は拍手の渦でした。



智学館中等教育学校5年
お笑い
宮内 一騎

マリンバは初めての挑戦でした。発表したのは2曲。くるみ割り人形のなかから「金平糖の踊り」と「ロシアの踊りトレバック」です。「金平糖の踊り」がゆったりとしたリズムなのに対して、「トレバック」はハイテンポなので、その切り替えに神経を集中しました。ステージではみんなを信頼して演奏でき、それぞれの音の響きを味わうことができました。こうした発表の場があると励みになるので、さらに練習を重ねていくつもりです。



智学館中等教育学校3年
マリンバ演奏
大森 美紀

みんなを信頼して演奏、
音の響きを味わえました。



今回は「真面目にふざけよう！」をコンセプトに、大学教授や〇〇連盟会長といった真面目なはずの人たちが、こんなふざけたことを言っちゃおうの!? というギャップの面白さを表現しました。文化祭のように自校の生徒だけでなく、保護者の方や大学の先生など、広い世代に向けて演じるため緊張しましたが、誰に見てもらおうのかを意識して舞台をつくるという、新しい視点を得たことが大きな収穫です。

誰に見せるのかを考える
良い機会を得ました。

学習習慣の形成を目指した授業を展開。

議論、発表、課題を通して、大学生としての学びの技法と姿勢を身に付ける。



知識・情報を吸収し、自分の考えを発信する。

人間科学部コミュニケーション学科では、大学生に必要な学びの技法と姿勢を身に付けさせるため、1年次必修のプレゼミナル科目において、学習習慣の形成を目指した授業を展開しています。この日の授業では、前回出された「大学の定期試験はなぜ論述式が多いか」「前期試験の問題を予想する」という二つの課題について、各自が調べ、考えてきた内容を4〜5人のグループに分かれて検討。グループを代表する意見としてまとめ、発表するという流れで行われました。

このほか毎週図書や新聞記事の要約などを課しています。授業時間外にも課題と向き合い、それをもとに議論や発表を行うことにより、学生たちは知識・情報を吸収するだけでなく、自分なりの意見や考えを発信することに慣れていきます。こうした学びの技法を身に付けることは、大学での学習の成果を高めるだけでなく、将来社会で生きる力を養うことにもつながっていきます。

学習習慣の形成には導入教育が重要。

プレゼミナル科目の目標の一つが授業時間外の学習を習慣づけることです。毎週の課題は、自ら工夫して勉強する経験が乏しい学生に対し、常に課題に取り組み姿勢、さらには自ら計画を立てて学ぶ姿勢を身に付けさせることを目指しています。これを大学1年次に行うことが重要と考えています。

授業の進め方については試行錯誤してきましたが、教務委員を中心に教員が毎週打ち合わせをして問題を共有することにより、修正を繰り返しました。学生の成績や学習の進捗状況も教員相互で把握しているため、個別にフォローが必要な場合も見逃すことは少なく



人間科学部
コミュニケーション学科
准教授 石川 勝博

なっています。その結果、学生の学びに対する姿勢には、一定の効果が表れているように見えます。

「社会に不可欠な『考える力』を育てるために。」

コミュニケーション学科ではこの授業以外にもグループワークの機会が多く、常に考え、自分と他者の意見を交換することが求められます。それはこれから社会で生きるために不可欠な「考える力」を育てることにつながります。例えば常識を当たり前のものとして受け入れるだけでなく、常に「なぜだろう?」と考えてみることで、社会では常に学び続けることが求められています。そのための基礎体力となるのが学習の習慣なのです。

2年次以降のより専門的な科目において、教員と学生が共同で授業をつくりだすために、今後も導入教育に力を入れていきます。

教育支援としてのeラーニングに注目。

いつでも、どこからでも学習環境にアクセスできるインターネット活用。

講義の補助教材としてのeラーニング。

インターネットを介して授業を受けたり、課題やレポートを提出するなど、学習を支援する仕組みがeラーニングです。私はこのeラーニングに注目し、数年前から研究を行ってきました。現在は、学科の講義の一部をeラーニング化し、試験運用していますが、いずれは学科全体で、さらには大学全体で広く活用することが目標です。

eラーニングのメリットの一つは授業時間外の学習サポートにあります。予習復習などの機会を提供することによって、学生の理解度を高めるだけでなく、アクセスした履歴によって学習の状況を把握することもできます。また、双



コミュニティ振興学部
コミュニティ文化学科
准教授 塩 雅之

方向性を生かして個別の質問にもすばやく対応でき、学生はすぐに疑問を解消することができます。このようにeラーニングは講義の補助教材として有効に活用できると考えています。

資格取得や就職活動などの支援にも有効。

コミュニケーション文化学科は、地域の学習文化的資源のデジタル化を担う「デジタルアーキビスト」の養成にも力を入れています。地域社会において、生涯学習支援コンテンツなどの情報技術に強い学生を育てるためにタブレットコンピューターを活用した教育も検討しています。

eラーニングはこのほか資格取得や就職活動の支援、入学前教育など正課授業以外の学習サポートにも有効だと考えています。今後はeラーニングシステムを使って学習効果を高めたいという教員のニーズを集め、科目の特性に応じた仕組みを開発しながら、実績を積んで、完成度の高い大学公式のシステム構築を目指しています。



坂井教授のホームページには、ゼミの学生が制作した学習コンテンツがアップされています。コンテンツの利用規約や禁煙のキャラクターも学生の作。特に利用規約は非常に完成度が高いものとなっています。

教育サービスを広く提供する可能性に期待しています。

病院、少年院や高齢者福祉施設の入所者や不登校児など、教育サービスが届きにくい人々に学習の機会を提供する仕組みとして、eラーニングには大きな可能性があります。その際に欠かせないのが、著作権や個人情報保護の理解と、コンテンツを管理し活用する能力です。今回、eラーニングコンテンツとして動画を制作した「著作権と情報倫理」の授業は、まさにこうした視点を学ぶものです。専門である博物館学においても、世界中のミュージアムから授業を行うなど、eラーニングによって新しい講義スタイルが実現することを期待しています。



コミュニティ振興学部
コミュニティ文化学科
教授 坂井 知志



Books

教員著書案内



- 1 法学
権利保護と成年後見制度
更生保護制度 (社会福祉学習双書)
- 2 藤本 哲也
被害者学研究科 教授
- 3 「社会福祉学習双書」編集委員会編
- 4 2012年3月
- 5 全国社会福祉協議会

本書は、社会福祉士、介護福祉士、精神保健福祉士の試験のための基本書である。特に2012年版では、第3部更生保護制度の導入部分として刑事法(藤本担当部分)が追加されました。



- 1 新版県史 第2版 8
茨城県の歴史
- 2 糸賀 茂男
人間科学部 教授
- 3 長谷川伸三、糸賀茂男、今井雅晴、秋山高志、佐々木寛司 編
- 4 2011年12月
- 5 山川出版社

本書は「県史」シリーズ(全47巻)の一書です。最新の研究成果を踏まえたコンパクトな地域史です。茨城県各地域の真の歴史展開から豊かな日本史を理解してください。



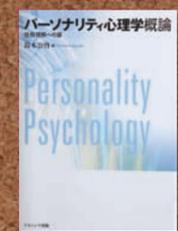
- 1 Fandom Unbound:
Otaku Culture
in a Connected World
- 2 石田 喜美
人間科学部 専任講師
- 3 Mizuko Ito, Daisuke Okabe,
Izumi Tsuji eds.
- 4 2012年1月
- 5 Yale UNIVERSITY PRESS

グローバル化するオタク文化とその文化的実践について網羅的に解説した世界初の本。鉄道オタクからコスプレイヤー、腐女子まで幅広い事例研究の成果を収録しています。



- 1 状況と活動の心理学
—コンセプト・方法・実践
- 2 石田 喜美
人間科学部 専任講師
- 3 茂呂雄二、有元典文、青山征彦、伊藤崇、香川秀太、岡部大介 編
- 4 2012年5月
- 5 新曜社

人間のこころの営みを、社会・文化・歴史・状況のエコロジーの中に見いだそうとする一連の研究的営みを、精選されたキーワードを切り口として、多角的に解説した一冊。



- 1 パーソナリティ心理学概論
—性格理解への扉
- 2 太幡 直也
人間科学部 助教
- 3 鈴木公啓 編
- 4 2012年4月
- 5 ナカニシヤ出版

本書では、パーソナリティ心理学(性格心理学)に関する各領域を紹介しています。太幡は社会心理学の視点から、「パーソナリティと社会的認知」について解説しています。



- 1 教科教育の理論と授業II
理数編
新教職教育講座第6巻
- 2 鈴木 宏昭
人間科学部 助教
- 3 大高泉、清水美香 編
- 4 2012年3月
- 5 協同出版

2008年の学習指導要領改訂に伴い、理数教育の充実が図られることになりました。本書は、その実現に向けたテキストです。鈴木は「理科実験の安全教育」を担当しました。



- 1 人類の道しるべとしての
国際法
—平和、自由、繁栄をめざして
- 2 渡部 茂己
国際学部 教授
- 3 秋月弘子、中谷和弘、西海真樹 編
- 4 2011年10月
- 5 国際書院

横田洋三先生古稀記念論文集で、巻頭は、渡部著「グローバル・ガバナンスにおける統治機関としての国連—地球共同体の立法機能、行政機能、司法機能を担う国際機構システム」。



- 1 博物館学I
博物館概論*博物館資料論
新博物館学教科書
- 2 水嶋 英治
コミュニティ振興学部 教授
- 3 大畑哲、水嶋英治 編著
- 4 2012年4月
- 5 学文社

2012年4月から学芸員養成課程のカリキュラムが改定され、そがバリエーションにおける新しい教科書が必要とされていました。この度、水嶋が編著者として関わった「博物館学」全4巻が出版されました。



- 1 ケツの知恵
—イルカとクジラのサイエンス
- 2 中原 史生
コミュニティ振興学部 教授
- 3 村山司、森阪区通 編
- 4 2012年2月
- 5 東海大学出版会

「イルカ・クジラ学」(2003年)の続編です。生理、進化、行動の分野における最新の研究を紹介しています。中原は「イルカの社会とコミュニケーション」を執筆。



- 1 福島原発事故
独立検証委員会
調査・検証報告書
- 2 砂金 祐年
コミュニティ振興学部 准教授
- 3 福島原発事故独立検証委員会
- 4 2012年3月
- 5 ディスカヴァー・トゥエンティワン

福島第一原発事故について、政府や国家による事故調査委員会とは別に、民間出身の研究者や弁護士などで構成された独立検証委員会(民間事故調)によって行われた調査の報告書です。



- 1 保育の道をめざす人への
アドバイス
—養育校での学び方から
就職活動まで
- 2 紙透 雅子
短期大学 教授
- 3 紙透雅子 編
- 4 2012年3月
- 5 みらい

保育士や幼稚園教諭として働くための準備を、学生としてどのように行っていけば良いのでしょうか。本書はそのためのいくつかのアドバイスを読者に提供します。



- 1 秘書概論
—これからの企業秘書・国際秘書へ向けて
- 2 高橋 眞知子
短期大学 教授
- 3 高橋眞知子、北原日出子 編著
- 4 2012年4月
- 5 樹村房

外資系企業にかかわらず、グローバル化・情報化が急速に進展する「今」、企業のサステナビリティを目指す経営者が求める秘書の能力と働く姿勢を学ぶです。



- 1 実践につながる
教育心理学
- 2 大内 晶子
短期大学 助教
- 3 櫻井茂男 監修、黒田祐二 編著
- 4 2012年4月
- 5 北樹出版

教員や保育士になることを目指す人が、教育心理学の学びを実践につなげられるよう工夫して書かれた初學者用のテキストです。大内は「第1章 発達」を執筆しました。



- 1 ベーシック司書講座・
図書館の基礎と展望 3
情報資源組織論
- 2 名城 邦孝
短期大学 助教
- 3 二村健 監修
根本裕希子、石井大輔、名城邦孝 著
- 4 2012年3月
- 5 学文社

司書課程科目、「情報資源組織論」に対応した教科書で、印刷資料から電子資料やネットワーク情報資源まで含む図書館情報資源の組織化の理論と技術について解説しています。

■ 研究テーマ

初等教育段階の児童を対象とする放課後活動支援のあり方に関する国際比較研究

【平成22年度～24年度日本学術振興会・科学研究費補助金 基盤研究(B)に採択】



日本における放課後活動支援には地域で子どもたちを育てるという意識が大切です。子どもたちにさまざまな体験や学習の機会を提供することは、大人たちの生きがいでもあり、地域の活性化にもつながると考えています。

研究紹介

世界の子どもたちの放課後の活動は？

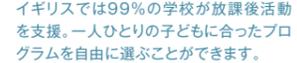
常盤大学 人間科学部
教授 金藤 ふゆ子

子どもたちの放課後活動の実態は？
国際比較研究は未開拓の分野でした。

児童が放課後に学習やスポーツ、芸術などに親しむとともに、児童の居場所の確保にもつながる「放課後活動支援」は、欧米先進国、韓国、日本などで、教育政策の一環として組織的に取り組まれています。また、日本では平成18年の教育基本法改正において、学校・家庭・地域が体となった教育の推進がうたわれ、放課後活動支援の仕組み作りはますます重要になっています。

しかし、こうした放課後活動支援の実態と効果に関する研究は、日本はもとより海外においてもこれまでほとんど行われてきませんでした。そこで、諸外国が実施する放課後活動支援の実態を国際的に比較研究することによって、共通の問題点や課題を明らかにし、さらにはこうした取り組みが子どもや保護者、地域の大人、学校や教員にどのような効果をもたらすのかを解明するために、イギリス、フランス、ドイツ、韓国、日本の国際比較調査を行いました。

調査から見えてきたことは、対象となった国々の活動の充実ぶりです。



イギリスでは99%の学校が放課後活動を支援。一人ひとりの子どもに合ったプログラムを自由に選ぶことができます。



韓国では小学校の99.9%で放課後活動が行われており、参加児童数は約6割。基本は有償ですが、民間の塾やクラブよりずっと廉価に利用できるほか、低所得者層の児童には無料で受講できる制度もあります。

放課後活動の充実が子どもたちの生きる力を育てると信じています。

一方、日本では放課後活動支援の実施率は50%にも届かず、学校と地域との連携の難しさを表しています。しかし、ある県の調査では、地域の人々や保護者と活発に連携している学校は、教員の職務への意欲が高く、負担感が軽減するという結果も出ています。

今回の調査では同時に児童へのアンケートも行いましたが、欧米や韓国に比べ、日本の児童の自尊感情の低さが浮き彫りになりました。放課後活動でさまざまな体験をし、大人や地域の人と交流することは、自尊感情が高く、学ぶことに意欲的な子どもを育てることにつながるという仮説のもと、現在は分析を進め、学会での発表やホームページでの公開を予定しています。放課後活動と子どもの意欲の関係を示すことによって、各地の放課後活動が盛んになり、生きる力を持った子どもたちが増えることを願っています。